

2 視点1に関わって

(1) 目的意識をもって学習に取り組むませる手立て

- ① 付けたい資質・能力や指導事項を明確にした単元構想。
- ② 児童に学習の見通しをもたせる。
 - 単元のゴールを明確にする。
 - 「見通しをもとう」のページを活用する。
 - 学習計画表を活用する。(児童が授業の中で活用)

ふりかえろう

□知る 心情が伝わるように音読するために、どのようなことに気を付けましたか。

□読む どのようなことを手がかりにして、人物像を捉えられましたか。

□つなぐ あなたが考えるこの作品のいちばんのポイントは、何だと思いますか。

異なる

ひろげよう

●書いたものを読み合ひ、友達感想について、思ったことや感じたことを伝え合おう。

まとめよう

●この後、二人の関係はどのように変化すると思うか。考えたことを友達と話し合おう。

●物語全体を読み深めることで、どのようなことを感じたり、考えたりしただろう。観点を決めて感想を書こう。

ふかめよう

●「律」と「周也」は、どのような人物だろう。

●「律」と「周也」、それぞれが思う自分自身。

●「律」から見た「周也」と、「周也」から見た「律」。

●あなたから見た「律」と「周也」。

●「律」と「周也」はそれぞれ、「言葉」や「言葉にすること」に対して、どのような思いや考えをもっているだろうか。

●「ぬれた紙面に――ぼくたちはまた歩きたし」(24ページ12行目)と、「しめった土のおいが――受け止められたのかも知らない」(29ページ12行目)には、「律」と「周也」のどんな心情の変化が表れているだろうか。

とらえよう

●この物語は、「律」の視点から書かれた「1」と、「周也」の視点から書かれた「2」で構成されている。同じ出来事に対する、それぞれのとらえ方や心情を確かめよう。

●共通点と異なる点は何か。

●「1」と「2」を合わせることで読み取れることは何か。

●登場人物の心情が伝わるように音読しよう。

見通しをもとう

視点のちがいに着目して読み、感想をまとめよう

●視点のちがいに着目し、登場人物の心情や人物像をとらえよう。

6年「帰りの道」
「見通しをもとう」のページ

<p>★単元を振り返って</p>	<p>★単元の目標</p> <p>●視点のちがいに着目して読み、感想をまとめよう。</p> <p>★ゴールの姿</p> <p>〈内容に着目して〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ●自分の経験と重ねて感想を書ける。 ●物語をさつぷりにつけて考えた「律」「周也」 <p>〈書かれた着目して〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ●視点を変えて書かれた構成(1)のよさ効果があるか考えて、感想を書ける。 	<p>課題</p>	<p>ふりかえり</p>	<p>1</p> <p>〈とらえよう〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ●律と周也の視点のちがいを押さえて、また、自分自身の「帰りの道」と比べながら読もう。 	<p>2</p> <p>〈ふかめよう〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ●視点のちがいに気を付けて、律と周也の人物を変え、二人の心の変化を考えよう。 	<p>3</p> <p>〈まとめよう〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ●その後二人をさつぷりにつけた感想しながら感想の観点をのびて感想を書こう。 	<p>4</p> <p>〈ひろげよう〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ●感想を読みながら自分の考えを伝こう。

学習計画表(児童が授業の中で活用)

○相手意識、目的意識をはっきりして取り組む。(だれに 何のために)

例・「一つの花」のリーフレット→3年生に、来年学習するときの参考になるように見せる。

- ・「じどうしゃ図鑑」→図書室においてもらって、たくさんの人に見てもらう。
- ・「学校紹介リーフレット」→田山小の友達に、安代小のことを分かってもらうために作る。
- ・感想発表会→クラスの中で、いろいろな意見を交流し、考えを深めるために 等

○単元の流れを明確にする。

- ・基本的には、以下のようにする。しかし、児童の実態や単元によって臨機応変に変える。

- | | |
|---|------|
| 1 | つかむ |
| 2 | 考える |
| 3 | 深める |
| 4 | まとめる |
| 5 | 広げる |

○本時の流れを明確にする。

- ・基本的には、以下のようにする。しかし、児童の実態や単元によって臨機応変に変える。

- | | | |
|---|-----------|--------------------|
| 1 | つかむ | ・課題の確認 |
| 2 | 考える | ・読む 学習場面の音読 |
| | | ・確かめる 内容と構造の把握 |
| | | ・考える 精査解釈 |
| | | ・交流する (ペア グループ 全体) |
| | | ・発表する 全体化 |
| 3 | 振り返る・まとめる | |
- 自力解決

(2) 自分の学びを自覚するための手立て

① 既有知識とこれまでにつけた力の確認

【例1】 単元のはじめ T: 説明文の学習が始まりますが、今まで説明文を読むとき、どんなことに気を付けてきましたか?

C: 「問い」と「答え」に気を付けました。

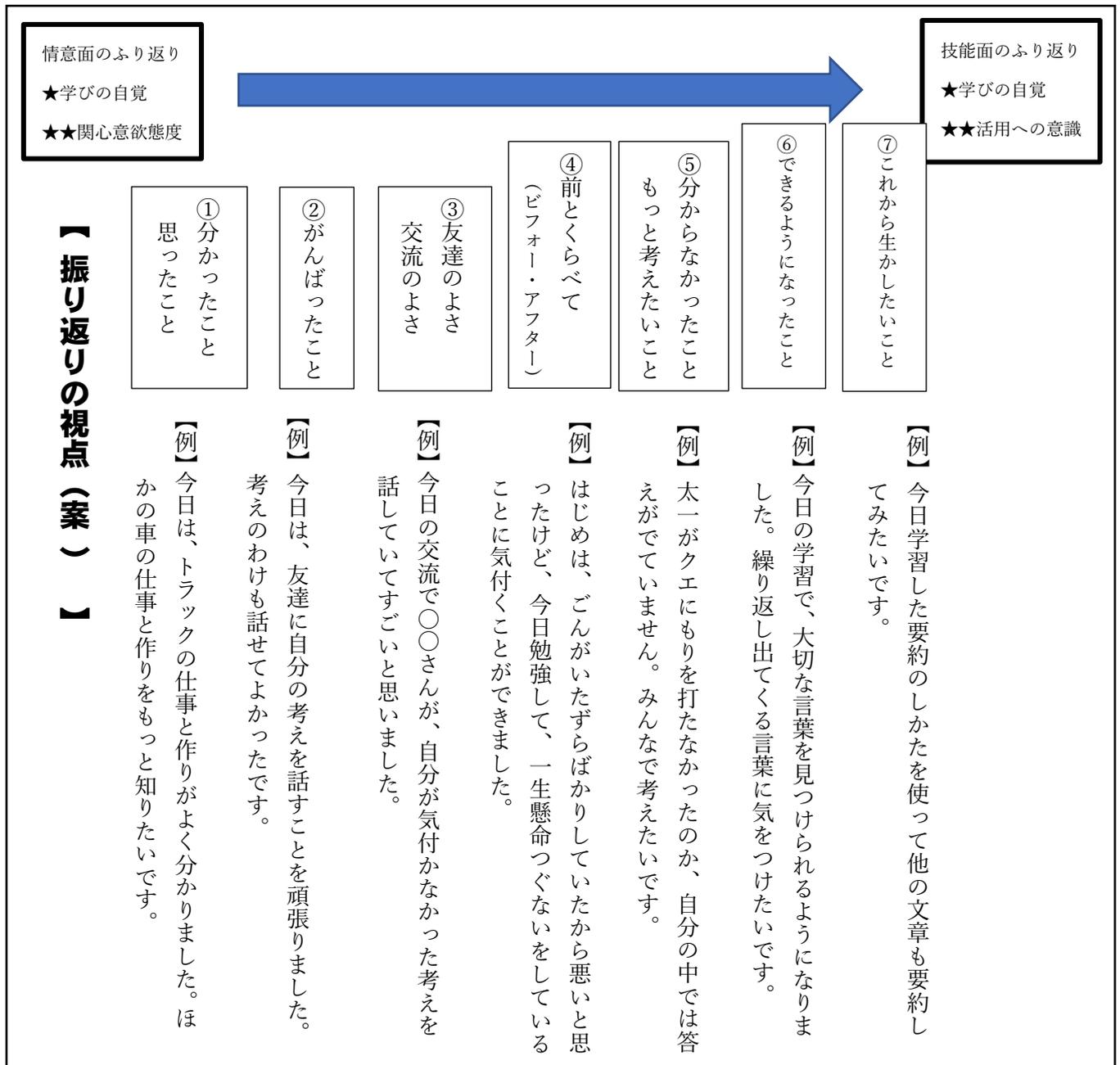
【例2】 単位時間はじめ T: 前の時間は、「情景」という表現を学習しましたね。情景からはどんなことが分かりましたか。

C: 登場人物の気持ちです。

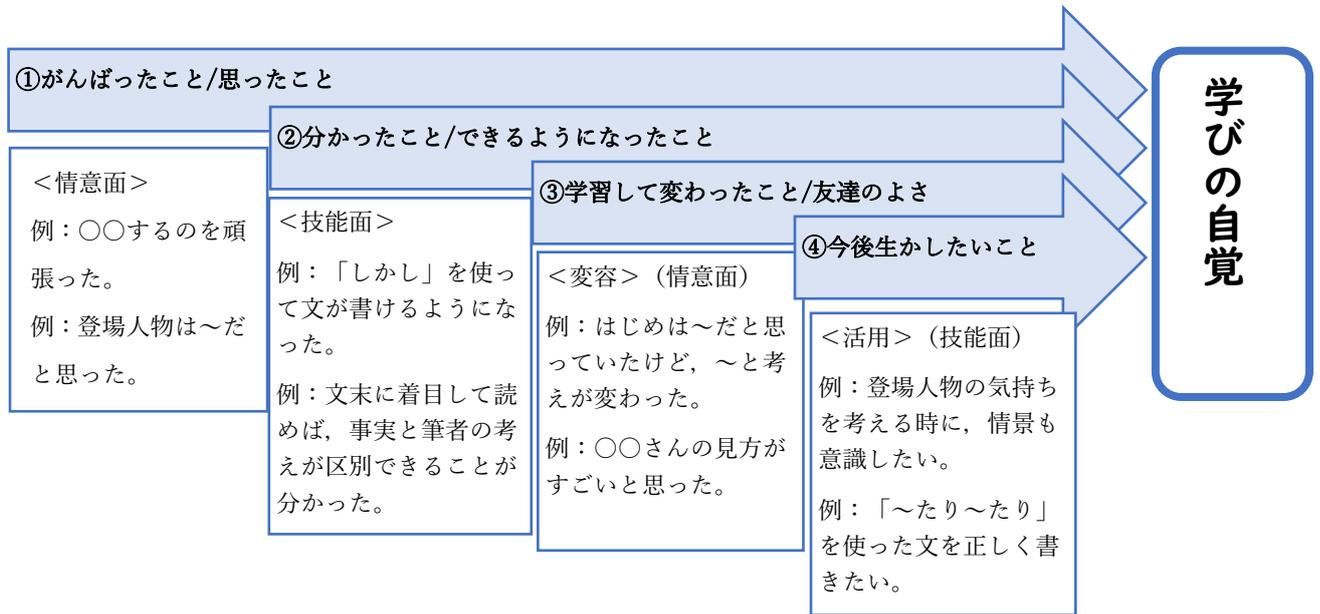
※ 「問い」「答え」だけでは読み解けなさそうだ、本時の課題は「情景」よりも別の部分に着目したほうが適切だ・・・などの足りない力の自覚や、別視点への転換にもつながる。

②振り返り

- 「まとめ」と「ふり返り」
 - ・「まとめ」課題についての共通認識や、みんなで考えたことの総括。「考える」段階の終末に行う。
 - ・「ふり返り」本時の学習の、自分の学びや変容などについて考えるもの。
 - ・学習場面、段階のねらいに応じて「まとめ」「ふり返り」を弾力的に行う。
- 振り返りを生かすために
 - ・振り返りの視点を提示し、児童と共有する。
 - ・国語以外の教科でも活用する。 Ex.「今日のふり返りは〇〇で書こう。」
 - ・単元の段階に応じて使い分ける。
Ex.単元のはじめには①②で、交流で深めた場面では③で、単元の終末には⑥⑦で書く。
- ふり返りの視点（案）と、書き方の例



振り返りのイメージ

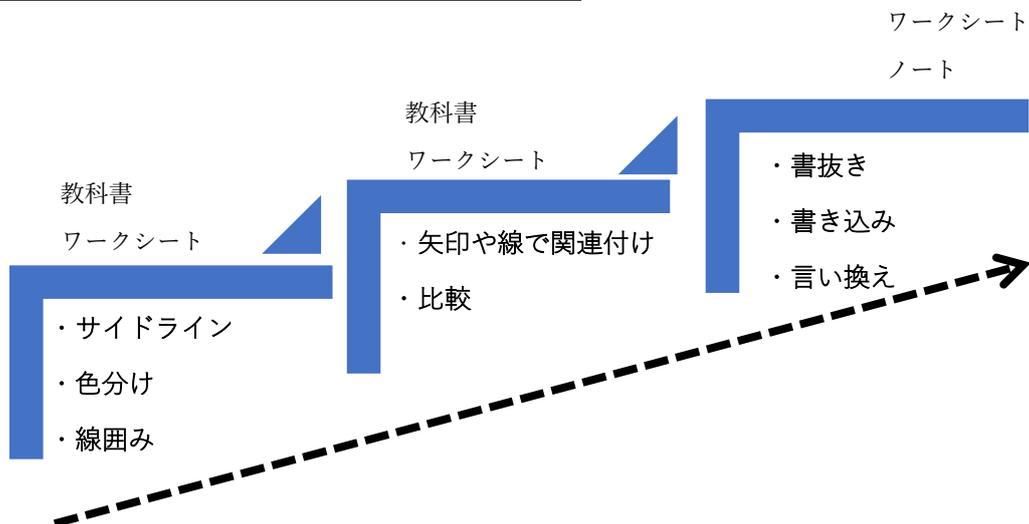


3 視点2に関わって

(1) 言葉に着目するための手立て

○サイドライン等

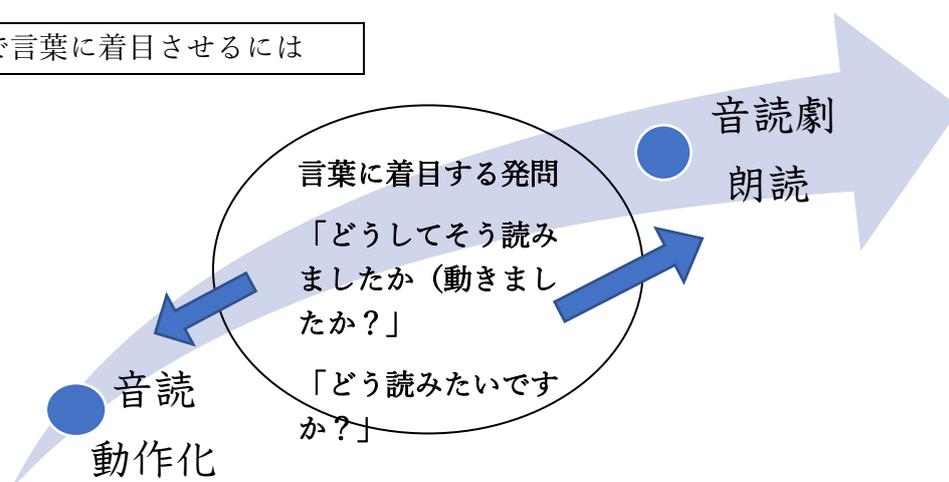
発達段階に応じた手立てのステップアップ



※ 教材文の特徴に応じて、手立てを重ねたり、選択したりしていく。

○音読

音読で言葉に着目させるには



- ・音読してからその意図を問うことで、読みを深める。

【例】T:「どうしてそう読みましたか？」

C:「うんと考えて思いついたから元気よく言ったと思います。」

【例】T:「つりあげるというのはどういう動きですか？」

C:「(動作化する) こう・・・。」

T:「どうしてそういう動きをしたのですか？」

C:「釣りとかでこうやって糸があって、持ち上げるから・・・。」

(2) 論理的に考えるための方法

- ①「考え」「根拠」「理由」の3つの段階を踏んで、自分の考えを伝えることを意識させる。

- ・考え・・・問いに対する自分の考え。
- ・根拠・・・考えをもつに至った根拠となるもの、みんなで共有できるもの。(=叙述や資料)
- ・理由・・・根拠に着目した理由となる、既有知識や経験などに基づいた自分の考察。

- ・「考え」→「根拠」→「理由」もしくは、「考え」→「理由」→「根拠」の順で発表できるように、他教科でも意識しながら取り組む。

○ 良さの理解

- ・「考え」「理由」「根拠」を踏まえて話すと、論理的(具体的)で説得力がある考えになることを理解させる。児童が良さを実感できるように指導していく。

- ・児童の発言や記述を取り上げ、評価する。

★低学年では、「考え」「根拠」までを伝えられるように指導する。「理由」については、教師の発問(②参照)で導いていき、発達段階に応じて指導する。

★「考え・根拠・理由」の用語は児童に無理して使わず、指導側の共通認識としておさえる。

「走れメロス」より

最高潮はどこか『考え』

最高潮は「走れ！メロス」のところ
だと思えます。

根拠は、定義の①②にあてはまるからです。メロスは今まで一度も弱さを見せていなかったけど、この時だけは「どうでもいい。何もかもばかばかしい。」と全力で走ることをあきらめていました。しかし、水を飲むことによつて、「歩ける、行こう。」と前向きに大きく変化しています。もしこのままメロスがあきらめていたら、王を変えることもセリヌンティウスの信頼に應えることもできずに終わってしまうと思えます。

問いに対する自分の考え

考えを持つに至った根拠となるもの、みんなで共有できるもの
(叙述や資料)

最高潮はどこか『根拠』

最高潮は「走れ！メロス」のところ
だと思えます。

根拠は、定義の①②にあてはまるからです。メロスは今まで一度も弱さを見せていなかったけど、この時だけは「どうでもいい。何もかもばかばかしい。」と全力で走ることをあきらめていました。しかし、水を飲むことによつて、「歩ける、行こう。」と前向きに大きく変化しています。もしこのままメロスがあきらめていたら、王を変えることもセリヌンティウスの信頼に應えることもできずに終わってしまうと思えます。

根拠に着目した理由となる自分の考察（経験や知識に基づいたもの）

最高潮はどこか『理由』

最高潮は「走れ！メロス」のところ
だと思えます。

根拠は、定義の①②にあてはまるからです。メロスは今まで一度も弱さを見せていなかったけど、この時だけは「どうでもいい。何もかもばかばかしい。」と全力で走ることをあきらめていました。しかし、水を飲むことによつて、「歩ける、行こう。」と前向きに大きく変化しています。もしこのままメロスがあきらめていたら、王を変えることもセリヌンティウスの信頼に應えることもできずに終わってしまうと思えます。

② 発問の工夫

○根拠と理由があいまいなときは問い返して、根拠と理由を補う。

<根拠を問う発問>

- ・どの言葉、文章から分かりましたか？
- ・どこから（挿絵や資料）分かりましたか？

<理由（既有知識や生活経験）と結び付ける発問>

- ・どうしてそう言えますか？
- ・このことについて、見たことや聞いたこと、知っていることがありますか？
- ・みんなはどんなときそう思うのですか？
- ・自分だったらどうするか考えてみましょう。
- ・前に学習した「○○○○」と比べるとどうですか？

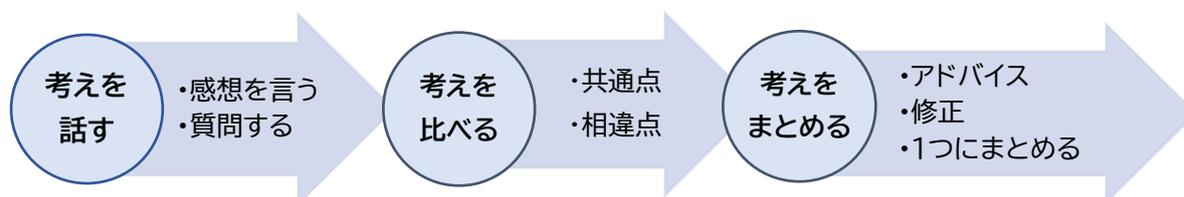
★教師のコーディネートで、根拠や理由を引き出し、3つのステップを踏んだ発表ができるように導く。また、他教科でも同じように取り組むことで、浸透を図る。

★既有知識と生活経験との結び付け、学んだことの活用は、教師が意図的に行う。

（3）学びを深めたり広げたりするための手立て

① 交流の場の設定

○目的を明確にした伝え合い活動



★単位時間内の交流に、目的を明確にして取り組ませる。

低学年・・・教師が意図をもって交流を位置づける。

- 【例】
- ・考えを伝え合い、自分の考えを確かにするための交流
 - ・聞く力、応答する力をつけるための交流

中学年・・・交流の目的を児童に理解させる。

- 【例】
- ・互いの考えを比べて、共通点や相違点を見つけるために交流する。
 - ・考えを交流して質問や意見を述べ合い、自分の考えを深める。

高学年・・・交流の目的を児童に理解させるとともに、交流によって考えを修正したり、まとめたりする。

- 【例】
- ・グループで1つの意見を出すために交流する。
 - ・交流の中でアドバイスをし合い、自分の考えをよりよいものにする。

○多様な考えを引き出す話題の設定

【例】「一つの花」4年

- ・ゆみ子は、お父さんの願い通りに成長しているか。
- ・戦争の激しさが一番伝わるのはどこか。
- ・お父さんは、一輪のコスモスの花にどんな思いを込めているのだろう。

「お手紙」2年 ・主人公はだれか。

「モチモチの木」3年 ・豆太がもっとも必死になっている場面はどこか。

「ごんぎつね」4年 ・最後の一文はあった方がよいか。

「やまなし」6年 ・賢治はなぜ「やまなし」と題名をつけたのか。 等

○ 学習形態の工夫

- ・ペア
- ・グループ
- ・全体

②教師の関わり

- 【視点2】 2 ② 教師の関わり 参照

③振り返り

- 【視点1】 2 ② 振り返り 参照